

ヨーク大学日本語科三学年読解教材  
AS/JP3000 6.0 Reading Comprehension  
Japanese Studies Program, York University  
第七課「翻訳」  
Lesson 7: Translation

---

最近やっとレジナルド・ビビー氏の「モザイクの狂気」の日本語訳を脱稿した。

色々事情があって、なかなか終わらせることが出来ず出版社にはずいぶん迷惑をかける仕儀となったが、生半可に翻訳など出来ないという感じを強くした。

翻訳を手がけたことがある人なら、誰しも経験することであるが、翻訳が、基本的には一つの文化をもう一つの文化に投射する仕事であるために、二つの言語はもとよりかなりそれぞれの文化に造詣なくしてはほとんど不可能であると言える。いや、両言語・文化にかなり精通している人にとっても、翻訳は容易な仕事ではないのである。日本は世界でも有数の翻訳王国であるが、学生時代に読んだ訳書にはかなりひどいものもあった。特に哲学書などは、ちんぷんかんぷんで何が書いてあるのか分からないものが多かった記憶がある。ハイデッガーの「存在と時間」などは、多分原文か英訳を読んだ方が分かりやすかっただろうと思う。「誤訳」という本が出るほどであるから、いちいち翻訳書を当たってみたら、誤訳の数は限りなくあることであろう。

最近、特に、「政治的正しさ」ということが言語表現に関する無言の検定基準

になっているので、翻訳者は大変である。差別用語に聞こえるものはすべて検閲官の目が光っているので、めったやたらなことは言えないし書けない。「めくら」「おし」「つんぼ」「びっこ」というような明らかに差別用語であるものは、使用を控えるのは当然としても、それらが出てくる古い書籍までも、この基準で改定しようとする動きにはついていけない。もう少し難しいケースとしていくつかあげてみよう。women's issue これは「女性問題」と訳しがちであるが、やはり、「女性に関する論争点」とでもすべきであろう。single parent とか one-parent family は「片親」とか「片親家庭」になってしまいそうであるが、「片親」というイメージを含めないために「一人親」とか「一人親家庭」というように新しい用語を作ることにした。intermarriage なども通例「国際結婚」と訳されるが、「混成結婚」にしてみた。inequities は「不公平」になりがちであるが、「不公正」の方が少し中立的な響きがあってよいと思われる。こう見てくると、翻訳者は未だに新しい用語・表現を作り出す役割を持っていることが分かる。古代から日本が中国と朝鮮〔旧名なのであえて韓国としない〕から新技術と用語を輸入した時は、ほぼ漢字を使えたが、江戸時代から明治・大正期の訳者・学者達の苦労は並大抵ではなかったであろう。恐いのは、我々が現在使っている、外来の語彙の訳語が、いかに本来の意味からかけ離れているかが実際に原語をかなり修得してみなければ分からないことである。democracy が

「民本主義」「民主主義」と訳されたことを見ても分かるように、それぞれの訳語には訳者がいかに原語の意味を解釈し日本語に輸入しようとしたかの苦労がうかがえる。最近の傾向としては、漢字を使わずに、カタカナで外来語を表記することが多くなった。informed consentなどは「告知された上での同意」というように訳せるが、いかにも翻訳的でなじみにくい。こんな場合、訳者は訳語に原語をつけるか、注釈をつけるかするのが、常であるが、一般には「インフォームド・コンセント」になってしまう。漢字の造語力が非常に限られてしまっている日本語では、無理のないことかもしれないが、将来ますます漢字が使われなくなるだろうと予想される。「化石化」した漢字文化が発展的に生き延びる術はないものであろうか。これもやはり「持続可能性」サステナビリティの問題であると思われる。

1999年4月30日

トロントにて

太田徳夫

---

[語彙]

翻訳(する)	ほんやく(する)	translation
最近	さいきん	recently
狂気	きょうき	madness
脱稿(する)	だっこう(する)	finish writing
色々	いろいろ	various
事情	じじょう	situation, reason

出版社	しゅっぱんしゃ	publisher
迷惑(をかける)	めいわく(をかける)	trouble
仕儀	しぎ	result, situation
生半可(な)	なまはんか(な)	imperfect, half-baked
(を)手がける		take up
誰しも	だれしも	everyone
経験(する)	けいけん(する)	experience
基本的(な)	きほんてき(な)	fundamental
文化	ぶんか	culture
投射(する)	とうしゃ(する)	project
仕事	しごと	work
言語	げんご	language
造詣	ぞうけい	knowledge
(に)造詣が深い	(に)ぞうけいがふかい	erudite
不可能(な)	ふかのう(な)	impossible
精通(する)	せいとう(する)	be versed in, be familiar with
容易(な)	ようい(な)	easy
世界	せかい	world
有数(の)	ゆうすう(の)	leading, prominent
王国	おうこく	kingdom
時代	じだい	era
訳書	やくしょ	translation (book)
特に	とくに	particularly
哲学書	てつがくしょ	philosophy book
ちんぷんかんぷん		gibberish
記憶(する)	きおく(する)	memory
ハイデッガー		Heidegger, Martin
存在	そんざい	existence
時間	じかん	time
[存在と時間]		Sein und Zeit
多分	たぶん	probably
原文	げんぶん	original text
誤訳	ごやく	mistranslation
数	かず	number
限りない	かぎりない	limitless, endless
政治的(な)正しさ	せいじてきただしさ	political correctness

言語表現	げんごひょうげん	linguistic expression
関する	かんする	regarding
無言(の)	むごん(の)	silent
検定基準	けんていきじゅん	criteria for approval
大変(な)	たいへん(な)	hard, troublesome
差別用語	さべつようご	discriminatory expression
検閲官	けんえつかん	inspector, sensor
目が光る	めがひかる	keep an watchful eye on
めったやたら(な)		reckless and thoughtless
めくら		blind
おし		mute
つんぼ		deaf
びっこ		lame
明らか(な)	あきらか(な)	obvious
使用(する)	しよう(する)	use
控える	ひかえる	refrain
当然(な)	とうぜん(な)	as a matter of course
書籍	しょせき	books
基準	きじゅん	criterion
改定(する)	かいてい(する)	revise
動き	うごき	move
難しい	むずかしい	difficult
女性	じょせい	female
訳す	やくす	translate
論争点	ろんそうてん	(disputed) issue
片親	かたおや	single parent
家庭	かてい	home
含める	ふくめる	include
用語	ようご	terminology
作る	つくる	create
通例	つうれい	customarily
国際結婚(する)	こくさいけっこん	international marriage
混成	こんせい	mixed
不公平(な)	ふこうへい(な)	unfair
不公正(な)	ふこうせい(な)	unjust
中立的(な)	ちゅうりつてき(な)	neutral

響き	ひびき	sound, effect
未だ(に)	いまだ(に)	still
表現(する)	ひょうげん(する)	express
役割	やくわり	role
古代	こだい	ancient times, antiquity
朝鮮	ちょうせん	old name of Korea
旧名	きゅうめい	old name
あえて		dare, venture, on purpose
韓国	かんこく	South Korea
新技術	しんぎじゅつ	new technology
輸入(する)	ゆにゅう(する)	import
漢字	かんじ	Kanji character
使う	つかう	use
江戸時代	えどじだい	Edo Era
明治	めいじ	Meiji Era
大正	たいしょう	Taisho Era
期	き	period, era
学者	がくしゃ	scholar
達	たち	[plural marker]
苦勞(する)	くろう(する)	go through hardships
並大抵(の)	なみたいてい(の)	no easy (task)
怖い	こわい	scary
我々	われわれ	we
現在	げんざい	present
外来(の)	がいらい(の)	foreign origin, imported
語彙	ごい	vocabulary
本来(の)	ほんらい(の)	original
意味	いみ	meaning
かけ離れる	かけはなれる	be far apart from
実際(の)	じっさい(の)	actual
原語	げんご	original language
修得(する)	しゅうとく(する)	acquire
民本主義	みんぽんしゅぎ	Sakuzo Yoshino's term for 'democracy'
民主主義	みんしゅしゅぎ	democracy
解釈(する)	かいしゃく(する)	interpret

傾向	けいこう	tendency
表記(する)	ひょうき(する)	transcribe
告知(する)	こくち(する)	inform
同意(する)	どうい(する)	consent
翻訳的(な)	ほんやくてき(な)	translation like
なじむ		become familiar with
場合	ばあい	case
注釈(する)	ちゅうしゃく(する)	annotate
常(の)	つね(の)	usual, customary
一般(の)	いっぱん(の)	general
造語力	ぞうごりよく	creative power
非常(な)	ひじょう(な)	extreme
限る	かぎる	limit
無理(な)	むり(な)	impossible
将来	しょうらい	future
予想(する)	よそう(する)	predict, anticipate
化石化(する)	かせきか(する)	fossilize
発展的(な)	はってんてき(な)	developmental
生き延びる	いきのびる	survive
術	すべ	means
持続可能性	じぞくかのうせい	sustainability
問題	もんだい	issue

---

© Norio Ota 2005